

## 4. 活動報告

### 4. 1 会議録

平成 29 年 5 月 19 日 第 1 回技術検討会

場所：株式会社翔エンジニアリング会議室（東京都港区）

時間：13:00 ～ 15:00

出席者：松島、藤原、勝亦、足立、今津、武田・福留・宋（自律制御システム研究所）、  
小野(オリエントマイクロウェーブ)、岸本（翔エンジニアリング）

会議内容：今年度研究計画の確認を行った。5 月 17 日の大型無人航空機のフライト試験  
の結果を集約して、今後の無人航空機運用の検討を行った。

平成 29 年 7 月 26 日 第 2 回技術検討会

場所：京都大学生存圏研究所

時間：午後随時

出席者：松島、手操、藤原、勝亦、足立、今津、篠原、小川（菊池製作所）、小野(オリ  
エントマイクロウェーブ)、岩佐（九州大学理学部）、武田・福留・宋（自律制御シス  
テム研究所）

会議内容：今年度研究計画の確認。マイクロ波送受電装置の試験および検討。7 月 28 日  
の公開実験に向けての準備打合せ。

平成 29 年 10 月 3 ～ 5 日 屋外実験打合会議

場所：尾瀬ほたか高原スポーツパーク（群馬県片品村）

時間：随時

出席者：松島、手操、藤原、今津、小野(オリエントマイクロウェーブ)、岩佐（九州大  
学理学部）、岸本（翔エンジニアリング）、武田・福留・宋（自律制御システム研究所）、  
飯野・渡辺（シモレックス）、設楽、井岡、浅野（タイプエス）

会議内容：実験内容についての打合せを行った後、実験でデータを得るための各種機材  
をセットし、操作方法と実施手順の確認を行った。

平成 29 年 10 月 6 ～ 9 日 無人航空機運用訓練講習会

場所：タイプエステクニカルセンター（前橋市）尾瀬ほたか高原スポーツパーク（群馬  
県片品村）

出席者：松島、手操、岩佐（九州大学理学部）、岸本（翔エンジニアリング）、今野（ブ  
ロシエア）、設楽、井岡、浅野、岸尾（タイプエス）

会議内容：無人航空機を操縦するために必要な講習・訓練を行った。

10 月 6 日、トレーニングセンターにて関係法規、気象や機材による運動特性に関する座  
学を受けたあと、訓練シミュレータの操作、室内用小型ドローンの操作訓練をおこな  
った。

10 月 7 日、前日の座学の復習をしたあと、シミュレータによる訓練操縦訓練と、室内用  
小型ドローンの操縦実験をおこない、午後から屋外のトレーニング場にて GPS 機能を

搭載した屋外用練習機の操縦訓練をおこなった。

10月8日、片品村の尾瀬ほたか高原スポーツパークにて、中型 UAV のセットアップ作業および飛翔訓練を行った。

10月9日、片品村の尾瀬ほたか高原スポーツパークにて、大型 UAV を用いて自律航法のプログラミング設定および、自律航法による飛翔訓練を行った。

平成 29 年 12 月 8 日 第 3 回技術検討会

場所：株式会社翔エンジニアリング会議室（東京都港区）

時間：10:00 ～ 12:00

出席者：松島、藤原、今津、勝亦、足立、小野(オリエンタマイクロウェーブ)、井上(自律制御システム研究所)

会議内容：10月の片品村実験のとりまとめ、12月の屋外実験の手順確認作業

平成 30 年 1 月 10 日 桜島屋外実験事前調査会

場所：京都大学火山活動研究センター（鹿児島市）

時間：17:30 ～ 19:00

出席者：松島・井口・藤原

会議内容：桜島におけるフライト実験や来年度以降の活動方針について協議

平成 30 年 3 月 10～11 日 霧島山屋外実験事前調査会

場所：霧島山

時間：随時

出席者：松島・手操、藤原（電話参加）

会議内容：空中送電実験のデータ回収実験を霧島山実施するための事前現地調査。前日から霧島新燃岳・硫黄山の火山活動が活発となり、立入規制がかかったため、実験を行うための適地を見つけることができなかった。

平成 30 年 3 月 18～20 日 第 4 回技術検討会

場所：京都大学生存圏研究所

時間：随時

出席者：藤原、足立、勝亦、今津、松島（電話参加）

会議内容：マイクロ波送受電装置の新調した送受電の試験および検討

平成 30 年度の事業の方針およびフライト実験について

#### 4. 2 対外的発表

松島 健・清水 洋・藤原暉雄・篠原真毅・井口正人，空中マイクロ波送電技術を用いた火山観測・監視装置の開発，日本火山学会秋季大会，P027，2017年9月21～23日

松島 健・清水 洋・藤原暉雄・篠原真毅・井口正人，空中マイクロ波送電技術を用いた火山観測・監視装置の開発，サイトビジット展示会，革新的イノベーション創出プログラム「活力ある生涯のための Last 5X イノベーション拠点」，京都大学生存圏研究所，2017年7月28日